

(別紙)

令和7年6月定例会議 一般質問【日曜議会】

6番議員 前田 せつよ

母子保健の充実のため「母子免疫ワクチン」「赤ちゃんの駅」の推進を

母子免疫ワクチンは、妊婦がワクチンを接種することで母体内に抗体ができ、胎児にも抗体ができる。

国は12年前、日本ワクチン産業協会に対して、新生児・乳児を「RSウイルス感染症」から守る母子免疫ワクチンの開発を要請した。結果、昨年1月ワクチンは薬事承認され、同年5月発売となった。この感染症は罹患すると、場合によっては赤ちゃんが重い肺炎に至ることから、予防接種推進専門協議会は、厚生労働省にRSウイルスワクチンの早期定期接種化など、要望書を本年4月も含め複数回提出している。

そこで、母子保健の充実のためRSウイルスワクチンについて、啓発等に取り組むべきと考え、見解を問う。

低出生体重児を出産した、産後早期に職場復帰した女性達から、搾乳のために授乳室を利用したいが、子ども連れでないと入室をためらうとの声を聴く。

県は「搾乳できますマーク」を授乳室に掲示して、安心して搾乳ができる環境づくりに取り組んでいる。

本町では授乳やおむつ交換ができる場所「赤ちゃんの駅」を町内の公共・商業施設などに開設している。

そこで、赤ちゃんの駅に「搾乳できますマーク」の掲示を行うなど、母子保健の充実を図るべきと考え、見解を問う。